

ネットを使った誘い出しリスクの傾向の予備分析

-2022年度の全国の高校生調査により-

○氏名 田代光輝 TASHIRO Mitsuteru

Keywords : ソーシャルネットワークサービス(SNS), ネットリスク, 誘い出し, スマートフォン

1 目的

本研究の目的は、未成年のインターネット（以下：ネット）の利用安全のため、特にネットを利用した誘い出し予防を目的とした研究である。この分析を通じて、誘い出しを受けやすい属性や利用状況、リスクを下げるための技術的側面、人間的側面、組織的側面を明らかにし、未成年のネット利用安全の向上を図る。

2 方法

本研究は、誘い出し行為予防のため、全国の高校生へのアンケートデータを元に、誘い出しにつながる状況として、「知らない人から会いたいというメッセージを受け取った経験」と「知らない人から顔が映った写真を送れと言われたときの対応」の2つのリスクにつながる状況に注目し分析した。この2つのリスクにつながる状況を目的変数とし、説明変数には安全学の概念である「技術的側面、人間的側面、組織的側面」の3つの側面と、属性や利用時間、就学意欲などを用いて分析した。アンケートデータは、ダミー変数化や標準化等の処理し、統計ソフトRを利用して、バイナリーロジスティック回帰分析を行った。

3 結果

調査・分析の結果、知らない人から会いたいというメッセージを受信する割合は、スマートフォンの利用時間が長く、顔写真をSNSで公開していると、高くなることが分かった。また、知らない人から「顔が映った写真を送れ」と要求された際、断るもしくは保護者に相談すると回答する割合は、女性で、顔写真を公開しておらず、スマートフォンの利用時間が短く、フィルタリングを設置していて、家庭内ルールを守っている人が高い、という結果となった。

4 結論

以上により、ネットを利用した誘い出しのリスクの在り方が見えてきた。メッセージ受信という受動的な行動には技術的側面、人間的側面、組織的側面の相関は見られなかったが、写真を要求されたときのような能動的な行動には、フィルタリングや家庭内ルールの相関がみられた。一方で、顔写真をSNSで公開しているなど、リスクを高める行動も明らかになった。しかし、これはまた分析途中であり、発表までにさらに詳細な分析を進める予定である。

【主要参考文献】

- 向殿政男,「入門テキスト安全学」,『東洋経済新報社』,2016.
- 田代光輝・小松正・浅子秀樹,「スマートフォン利用の生活時間への影響分析ー神奈川県および全国の高校生のアンケート調査からー」,『情報社会学会誌』14(1),pp25-34,2019